



すみれ

題字 北浦 晃氏

第 9 号
発行 平成 5 年 3 月 16 日
発行所 文化女子大学室蘭
短期大学同窓会
室蘭市高砂町 3 丁目 11-50
印刷所 富士印刷株式会社

文化女子大学 4 年生による ファッションショー開催

被服構成コース・デザインコース

9月27日(月) 室蘭
9月28日(火) 札幌
入場は無料です
詳細は短大伊藤まで問い
合せて下さい。



ファッションショー (服 2)

東京と強い連携

主事 菊地 敬夫



主事 菊地 敬夫

学および短大関係者は学生数の確保に頭を痛めています。「陶汰の時代に入った大学、短大」といつた見出しが新聞、雑誌によく出ますが、大学当局では真剣にアノ手コノ手の対策を行っているのが実情です。

第二十三回卒業式は、平成五年三月十六日発行され、新しい社会人として、また三年学部編入学での大学生として巣立っていきました。四月十日には、第二十五回入学式が行われ、新入生が入ってきました。
ご承知のとおり、十八歳人口は昨年をピークに、今年から減少の一途をたどりますので、大子大学との連携が注目された結果

今回のこの文大祭も、彼女達の心の片すみに、青春の一ページとして大切に残り続ける事だろう。

同窓会バザー

谷さん 恵庭から応援に!

平成 4 年度、8 回目のバザーは 11 月 1 日(日)、同窓会会長も参加し文大祭一般公開の 2 日目に 10 時から 3 時まで行なわれました。当日、店開き間も無く服装学科 7 期卒業の谷朋子さんが手製のコッ



谷さん(左)と会長



バザー風景(飾りつけも工夫して)

「天は二物を与えず」という諺に、どんなに多くの人々が救われたことか。スタイルが良ければ顔がイマイチ。絶世の美女だがオツムがチョット。〇〇は良いが性格はプス。世の中まます。自分の欠点は棚に上げ、何とか相手のアラを捜し出し、自分のレベルまで引き下げようという、浅ましき習性。しかし、天は神は、この世に不公平という言葉もお作りになった。才色兼備、容姿端

水芭蕉

保一 北村 啓子

麗、性格円満、氏素性文句なしありとあらゆる美辞麗句の上に、努力の人。こうなればもう完全に脱帽。パーフェクト、畏敬の念さえ覚えてしまう。ご存知の通り、今を時めく「雅子」さんである。ロイヤルストーリーにはとんと疎い私にも、今回の過激な情報に、目も耳も奪われてしまった。しかしながら、平民の私にしてみれば、今後の彼女の私生活を計り知る事はできない。凡人は苦しまぎれに云う。私には何もないが「自由」がある。そしてつづやく、どんな……。

平成四年度	七七、五五〇	五三、四五八
平成三年度	六三、九九〇	五〇、五九五
平成二年度	二〇、四〇〇	一八、六五三
	売り上げ金	利益金

尚、今年のバザーは 10 月 30 日 10 時から予定しています。

会計報告

平成 3 年 4 月～平成 4 年 3 月までの会計収支決算は、下記の通りとなりましたので、皆様に御報告いたします。

収入金額	支出金額
繰越金 8,011,053	同窓会・記念品 83,430
同窓会費(保22期・教3) 1,540,000	卒業名簿・会報(印刷) 364,620
同窓会費(過年度分) 50,000	宛名書その他アルバイト 20,000
バザー売り上げ 63,990	バザー経費 13,395
利子 4,873	コピー代 4,316
	送料 422
	御礼品代 27,566
	その他(領収書・切手・フロッピー等) 8,621
(イ) 計 9,669,916	(ロ) 計 522,370
収支差引次期繰越金 ￥9,147,546	(イ-ロ)

平成 3 年 4 月～平成 4 年 3 月までの同窓会計収支決算は右記のとおりになりましたのでご承認下さい。尚、ご不明な点などご質問が

ありましたら、会計の方までご連絡下さい。毎年、催されますバザーも、年々売り上げを伸ばし、同窓会活

久しぶりに文大祭を見る事ができました。学内には、若々しい、そして明るい笑い声が響いて、なぜか私も心がはずみました。昔と変わらぬ学内の様子に友と懐しく歩きました。やっぱここはこうだったね。ここで同じ様に模擬店をやったね。うすれかけていた記憶をたどりつつ、またまた昔話を花を咲かせてしまった。そう言えば、何もかもが手さぐ

動の大きな力となってくれています。今後も同窓会運営の為、継続していただきたいと会計からも願っています。また 1 期生から 14 期生までの過年度卒の方々に終身会費納入につきまして、一通り未納額をお知らせして頂きました。少しづつではあります。皆様にご理解されています。毎年数十名の方々の会費を納めていただいています。お知らせを送付した数に比べますと、納入の割合は非常に少ないですが、ご理解下さっています。皆様に深く感謝しております。今年度は一期生から三期生までを対象にお知らせします。郵便振替にて納入願います。尚、振替用紙には封筒表面下に記載されています(会員番号)を必ず記入願います。

文大祭を見て

同窓会会長

下沢 和枝

りで行った第一回の文大祭。大変だったがやはり終わったあの時の充実感が今も心の片すみに残っている。友と遅くまで企画したり、手作業をしたりした事が少しづつ思い出されて、二十余年も前の私の青春がよみがえってきた。学園祭というもののあり方や、楽しみ方にはいろいろあって、最終的には自分達が楽しむものなのではないか。私の時は第一回という事もあって、自分達の存在を社会に知らせたいという気持ちも少しあった様に思われる。それはやはりフロンティア精神のようなものを皆、少しづつ持っていたのかもしれない。それはともかく、いつの時代にも変わらぬ若い人のエネルギーに少々嫉妬を感じつつ、



模擬店(うどん屋・保2)

'92 北のファッションコンテスト

浅井淑子記念賞 特別賞 の栄冠に輝く

教養学科 服飾デザインコース二年
高見沢優子さん

若手デザイナーの登龍門といわれる日本デザイナークラブ北海道支部主催の「'92 北のファッションコンテスト」で、服飾デザインコース一年生の高見沢優子さん（一九）が見事二賞を受賞した。
道ドレメ学院創立者にちなむ浅井淑子記念賞と、特別賞としてアパレルメーカーよりジェームスプロ

モーション賞を受賞した。
第一次審査は五三〇点のデザイン画の中から二五〇点まで絞られ、第二次審査は平成四年九月二九日に札幌で開かれた実物作品のコンテストによるものだった。受賞の対象は八作品、特別賞は四作品という狭き門であった。



高見沢優子さん（前列右）
教養学科服飾デザインコース1年
長野県佐久市出身
将来有望なデザイナーの卵です

らなかつたので、布地を探すことと、製作することが大変でした。
☆デザインのポイントまたどんな時にひらめきましたか？
○スカートはくす玉みたいになふわっとしたものを柔らかく表現したいと思いました。ケープはかぶとのような固いものを考え、上下の対比を表わそうと思いました。寝る直前とくに、よく考えてデザイン画を描きためておきました。
☆これからの抱負は？
○チャンスがあればいろいろなことに挑戦したいです。大学へ編入することが、今の目標です。
夢と希望がいっぱいの高見沢さんの将来の活躍に同窓会一同期待しています。

北のファッションコンテストで見事二つの賞を受賞した高見沢優子さんにお話を聞きました。☆受賞された感想をお聞かせ下さい。○まずはデザイン画を出品すると

いうことが目的だったので、とても嬉しいです。☆大変だったことはどんな事でしたか？
○布地の名前とか性質とか全く知り

らなかつたので、布地を探すことと、製作することが大変でした。
☆デザインのポイントまたどんな時にひらめきましたか？
○スカートはくす玉みたいになふわっとしたものを柔らかく表現したいと思いました。ケープはかぶとのような固いものを考え、上下の対比を表わそうと思いました。寝る直前とくに、よく考えてデザイン画を描きためておきました。
☆これからの抱負は？
○チャンスがあればいろいろなことに挑戦したいです。大学へ編入することが、今の目標です。
夢と希望がいっぱいの高見沢さんの将来の活躍に同窓会一同期待しています。



インタビュー
下沢会長

文化女子大学文化祭を視察して

学生課 丸山志乃

室蘭の文大祭終了後、私は十一月二日から四日迄の日程で、東京本校の文化祭を視察してきました。



～Fuse～のファッションショー

新宿キャンパスは大変広く、玄関前には真っ赤なリボンとイルミネーションに彩られた大きな木が私達一行を出迎えていました。それは、見慣れた北国の木々とは違った趣があり、美しいものでした。
その後、ファッションショーを見学しましたが、出演している学生は少ないのに、構成などは素晴らしい、裏方スタッフの充実もかがわれました。これには自治会役員もかなり触発されたようでした。室蘭も、ショーの内容が年々濃くなってきていますので、来年は更にレベルアップが期待できそうです。
その他、各カリキュラム展示、バザーと見学し、翌日には東京自治会役員との交流の場を設けるなど、様々な予定を組んで頂き、これから学生を指導していく上で貴重な勉強になりました。
本校と室蘭を比較すれば、規模や内容など、若干の差はありますが、それぞれの学科、コースのカリキュラムを限られたスペースをもっと地域に深く浸透した「文大祭」にするなど、課題はいくつかあるでしょう。しかし、学生達の



学長の若き日の写真を見せて頂く



東京自治会役員と交流

発表会を終えて

明日のスターを夢見て



毎年、十二月の冬休み前に行なっている発表会は、一年を通しての幼稚園生活の中で、最も大きな行事ではないかと思えます。発表会では、一人一人の子供が、自分の言葉で、自分の表現をする事をねらいに、クラス毎にオペレッタや劇の発表を行なっています。この台本は、市販されている物をそのまま使うのではなく、教師自身



先日、『もったいない運動』という記事を読んだ。我々戦後生まれの者にとっては、物が不足していた事など知るよしもない。ましてや町には物があふれている。たまたま今の日本はこうなのだが、ソマリアの子供達やカンボジアの子供達の映像を見るにつけ、自分を戒めようとするのだが、この気持ちもどうにかして伝えたいと思うのだが、それもからまわりしている。何か良い方法がないものか

編集後記

